



J613-M0019-04 Rev.C 050304



最初にお読みください

CentreCOM® 8724SL/8748SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724SL/8748SL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0019-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0019-01 Rev.C）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl12 (2.6.1-12)

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl05 から 2.6.1 pl12 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6」(Rev.C) をご覧ください。

2.1 BPDU フォワーディング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「一般コマンド」

スパンニングツリープロトコル無効時に受信した BPDU を転送する・しないの設定変更が可能になりました。設定は ENABLE/DISABLE SWITCH STPFORWARD コマンドで行います。デフォルトは無効（転送しない）です。

2.2 DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーター

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

DISABLE SWITCH PORT コマンドに LINK パラメーターが追加され、ポートをディセーブルにすると同時に、物理的にリンクダウンさせるかどうかを指定できるようになりました。LINK=DISABLE を指定した場合、ポートが物理的にリンクダウンします。LINK パラメーター省略時および LINK=ENABLE を指定した場合、ポートはリンクアップしたままとなります。なお、LINK パラメーターは 10/100M ポートに対してのみ有効です。

2.3 マルチプル VLAN (Private VLAN)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

マルチプル VLAN (Private VLAN) 機能が追加されました。マルチプル VLAN は、アップリンクポートとプライベートポートという 2 種類のポートで構成される特殊な VLAN です。プライベートポートとアップリンクポートは相互に通信可能ですが、プライベートポート間では原則として一切通信ができません。ただし、プライベートポートをグループ分けすることにより、同一グループ所属のプライベートポート間のみ通信を可能にすることもできます（ただし、8748SL では、ポートグループ「1 ~ 24、50」と「25 ~ 48、49」をまたぐプライベートポートグループは作成できません）。設定は、CREATE VLAN コマンドの PRIVATE オプション（マルチプル VLAN の作成）、および、ADD VLAN PORT コマンドの UPLINK（アップリ

リンクポートの追加)、GROUP (プライベートポート (グループ) の追加) オプションで行いません。

2.4 OSPF: BGP-4 経路の取り込みと再配布

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

BGP-4 で学習した経路を OSPF の経路表に取り込み、再配布できるようになりました。設定は、SET OSPF コマンドに追加された BGPIMPORT (BGP-4 経路を取り込むかどうか)、BGPLIMIT (取り込む BGP-4 経路数)、BGPFILTER (取り込む BGP-4 経路を選択するためのフィルター) の各パラメーターで行います。

2.5 DHCP サーバー: IP アドレスの使用状況確認

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP サーバー機能において、IP アドレスの使用状況確認を ARP で行うか ICMP で行うかを選択できるようになりました。設定は、CREATE DHCP RANGE コマンド、SET DHCP RANGE コマンドの PROBE パラメーターで行います。デフォルトは ICMP です。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl05 から 2.6.1 pl12 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能の併用 (8724SL のみ)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

8724SL において、ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能 (IGMP、IGMP Snooping、DVMRP、PIM-SM) の併用が可能になりました (ポートランキングと PIM-DM は併用できません)。

なお、8748SL では、ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能 (IGMP、IGMP Snooping、DVMRP、PIM-SM、PIM-DM) は併用できませんのでご注意ください。

3.2 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

OSPF パケットの IP TOS 優先度 (Precedence) ビットに、「Internetwork Control」を示す 110 (2 進) をセットするよう仕様変更しました (以前は 000 (2 進))。

3.3 DVMRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目) に対応しました。

3.4 ファイアウォール NAT

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

エンハンスド NAT 使用時、サーバー側 TCP ポートが 20 番の packets に対しては、クライアント側 TCP ポート番号の変換を行わないよう仕様変更しました。

3.5 VRRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

本製品がマスターのときにリンクダウンが発生した場合、VRRP の状態を MASTER から INITIAL に戻すことで、再リンクアップ時に ARP パケットが送信されるようにしました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl05 から 2.6.1 pl12 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 DELETE INSTALL コマンドを実行すると NVS 上に gui.ins というファイルが作成されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）を設定しても、指定した数値以上のメッセージが保存される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.3 ログを Syslog サーバーに送信するよう設定している場合、再起動時のログメッセージが Syslog サーバーに送信されませんでした。これを修正しました。
- 4.4 DISABLE SSH USER コマンドの実行時、「Operation Successful」メッセージが 2 度表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.5 高負荷通信時、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される Transmit/FCSErrors カウンターが増加していましたが、これを修正しました。
- 4.6 (8748SL のみ) 高負荷通信時に RESET SWITCH コマンドを実行すると、一時的にコンソールの反応が悪くなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.7 DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、指定したポートが物理的にリンクダウンし、LINK/ACT (L/A) LED が消灯していましたが、これを修正しました。
- 4.8 システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されていましたが、これを修正しました。

- 4.9 EDIT コマンドで設定ファイルを編集した場合などに、ポートミラーリングの設定コマンドとタグ VLAN の設定コマンドの記述順序によっては、タグ VLAN の設定が有効にならないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 ポートセキュリティがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリーも削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.11 ポートセキュリティがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストがマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録していましたが、これを修正しました。
- 4.12 ダイナミックポートセキュリティがオンのポートにおいて、大量のトラフィックを受信した場合に MAC アドレスが FDB に登録されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.13 スパニングツリープロトコル (Rapid モード) の使用時に dot1dStp MIB の値が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.14 スパニングツリープロトコル有効時、フォーデイング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧なくなっていました。これを修正しました。
- 4.15 SET STP コマンドを DEFAULT オプション付きで実行すると、スパニングツリープロトコル (STP) が無効なポートで通信ができなくなっていました。これを修正しました。
- 4.16 スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更した場合、および、DISABLE STP PORT コマンドに続いて ENABLE STP PORT コマンドを実行した場合、ARP キャッシュからスタティックエントリーが削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.17 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して SET STP PORT コマンドを実行するとき、STP ドメイン名の指定を省略すると PATHCOST や PORTPRIORITY の変更がすべての STP ドメインに反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.18 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して DISABLE STP PORT コマンドを実行し、その後 ENABLE STP PORT コマンドを実行すると、すべての STP ドメインに設定が反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.19 スイッチ本体宛てのパケットに対し、NOMATCHACTION で指定したアクションが機能していませんでしたが、これを修正しました。

- 4.20 (8748SL のみ) ハードウェア IP フィルターの設定で EPORT または IPORT パラメーターを指定した場合、指定しなかったポートにまでフィルターが適用されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 ハードウェア IP フィルターと VRRP の併用時、VR 配下端末からのルーティングパケットに対してハードウェア IP フィルターが正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.22 RESET PORTAUTH PORT MULTIMIB コマンドを使用しても未認証の Supplicant 情報がリセットされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.23 802.1X 認証の Authenticator ポートから IGMP Query パケットが送信されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.24 802.1X 認証が無効のときに SET PORTAUTH PORT SUPPLICANTMAC コマンドを実行すると、CONTROL パラメーターの指定が設定に反映されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.25 CRC エラーのある ICMP Echo Request パケットに対して Echo Reply を送信することがありましたが、これを修正しました。
- 4.26 受信した IP パケットの終点アドレスが、自インターフェースに直結されたサブネットのネットワークアドレスだった場合でも破棄せずに転送していましたが、これを修正しました。
- 4.27 IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできませんでしたが、これを修正しました。
- 4.28 ダウンした IP インターフェース宛でのディレクティブロードキャストパケットを受信すると、メモリーリークを起こすことがありましたが、これを修正しました。
- 4.29 ネクストホップが自インターフェースアドレスと一致している経路を IP の経路表に登録していましたが、これを修正しました。
- 4.30 スタティック経路を RIP で通知するとき、Next Hop フィールドに自インターフェースのアドレスをセットしてしまいましたが、これを修正しました。
- 4.31 ADD IP RIP コマンドの AUTHENTICATION パラメーターに MD5 か PASSWORD を指定した場合、設定を保存して再起動するとエラーメッセージが表示され該当インターフェースの RIP 設定が有効になりませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.32 RIP バージョン 2 の経路情報を送信するとき、NextHop フィールドに正しいアドレスをセットしていませんでしたが、これを修正しました。

- 4.33 受信した RIP パケットの送信元アドレスが受信インターフェースのネットワークアドレス範囲に収まっていない場合でも、該当パケット内の経路エントリを経路表に登録していましたが、これを修正しました。
- 4.34 OSPF において、ADD OSPF INTERFACE コマンドで仮想リンクを設定後、設定を保存して再起動するとエラーメッセージが表示され設定が反映されませんでした。これを修正しました。
- 4.35 OSPF において、本製品が DR として動作しているネットワークのリンクがダウンしても、ネットワーク LSA の更新通知を送信しませんでした。これを修正しました。
- 4.36 OSPF において、自分自身が作成したネットワーク LSA を他のルーターから受信しても、該当 LSA のシーケンス番号を増分して再送信しませんでした。これを修正しました。
- 4.37 OSPF において、LS age=3600 (MaxAge) の LS Update パケットを送信した後に、LS age が一致しない (3600 でない) LS Ack を受信した場合でも該当経路を削除していましたが、これを修正しました。
- 4.38 OSPF において、Delayed ACK を正しく返さないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.39 OSPF において、フラグメント化されている OSPF パケットを破棄してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.40 OSPF において、フラグメント化された OSPF パケットを受信するとメモリーリークが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.41 BGP-4 において、デフォルトルートが設定されている場合に、通信が行われているインターフェースがダウンしても経路が切り換わらないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.42 BGP-4 において、ダウンした経路の取り消しをピアに通知した後、該当経路を BGP の経路表から削除する前に同経路が再びアップしても、その経路をピアに再広告しませんでした。これを修正しました。
- 4.43 BGP-4 において、受信した経路の NEXT_HOP 属性値が自インターフェースのアドレスと一致している場合、該当属性が構文的に正しいにも関わらず、NOTIFICATION (エラー) メッセージを送信していましたが、これを修正しました。
- 4.44 BGP-4 において、外部ソースから経路情報を取り込むよう設定している場合 (ADD BGP IMPORT)、優先度が最高でない経路まで BGP の経路表に取り込んでいましたが、これを修正しました。

- 4.45 BGP-4において、外部ソースから経路情報を取り込むよう設定している場合（ADD BGP IMPORT）、優先度最高の経路がダウンしても2番目の経路を広告しませんでした。これを修正しました。
- 4.46 自インターフェースのアドレスを持つ ARP パケットを受信した場合、これを ARP キャッシュに登録していましたが、このようなパケットを受信した時は ARP キャッシュに登録せず、ログに記録するようにしました。
- 4.47 Error/Answer を含まず、かつ、Authority/Additional を含む DNS response を受信するとメモリーリークが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.48 SET IPV6 ND コマンドで MTU を変更した場合、再度デフォルトの 0 に戻すことができずでしたが、これを修正しました。
- 4.49 Neighbour キャッシュに登録されているアドレス宛での IPv6 パケットが同一 VLAN 内の全ポートにフラディングされていましたが、これを修正しました。
- 4.50 同一コストの IPv6 経路（スタティック）が複数存在する場合、IPv6 パケットのルーティングが正しく行われなかったことがありましたが、これを修正しました。
- 4.51 ADD IPV6 6TO4 コマンドで 6to4 トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.52 ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じ IP アドレスを持つ 6to4 トンネルインターフェースを複数作成しようとした場合に、エラーメッセージが表示されるようにしました。
- 4.53 IPv6 フィルターでパケットを破棄しても、SHOW IPV6 FILTER コマンドで表示される統計カウンター「Fails」がカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.54 DVMRPにおいて、経路の切り替えが正しく行われなかったことがありましたが、これを修正しました。
- 4.55 DVMRP 使用時、マルチキャストデータを受信している上流側のスイッチポートが変更になると、それ以降マルチキャストデータが転送されなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.56 IGMP Snooping 無効時、クライアントから IGMP Report メッセージを受信しても、該当ポートを DVMRP の転送表（転送キャッシュ）に登録しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.57 (PIM-DM/PIM-SM) PIM と DVMRP を両方とも有効にしている場合、PIM 側インターフェースから DVMRP 側インターフェースにマルチキャストパケットが転送されませんでした。これを修正しました。

- 4.58 (PIM-DM) PIM-DM 経路表の Keep Alive time が更新されないことがありますが、これを修正しました。
- 4.59 (PIM-SM) PIM-SM 経路表の (S,G)、(S,G,rpt) エントリーの Expiry time が 0 になっても、該当エントリーが削除されませんでした。これを修正しました。
- 4.60 (PIM-SM) 同一メトリックの経路が複数存在する PIM-SM 環境において Assert Loser として動作している場合、高負荷通信時に CPU 負荷が高くなり、通信が安定しないことがありますが、これを修正しました。
- 4.61 IGMP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラグディンクされませんでした。これを修正しました。
- 4.62 (8748SL のみ) Non-Querier として動作している場合、送信者が存在するポートと All Group ポートが異なるポートグループに所属していると（一方が「1 ~ 24、50」、もう一方が「25 ~ 48、49」のとき）、All Group ポートからマルチキャストデータが送信されないことがありますが、これを修正しました。
- 4.63 IPv6 パケットのヘッダー内の PadN と Router Alert の順序によっては、パケットフォーマットを不正と判断し MLD Snooping テーブルにエントリーを追加しないことがありますが、これを修正しました。
- 4.64 IPv6 パケットのヘッダー内の PadN と Router Alert の順序によっては、MLD Report を受信しても MLD Snooping テーブルの Refresh timer を更新しないことがありますが、これを修正しました。
- 4.65 SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Apprule の Number Hits が正しくカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.66 システム時刻の変更により、TTL パラメーターを含むファイアウォールルールが削除されてしまうことがありますが、これを修正しました。
- 4.67 システム時刻が「AM 00:00:00」頃になると、ファイアウォール経由の通信が切断されることがありますが、これを修正しました。
- 4.68 ファイアウォール NAT とポリシーフィルター（ソフトウェア IP フィルター）の併用時、本製品に Telnet 接続できなくなっていました。これを修正しました。
- 4.69 ルール NAT とアクセスリストの併用時に通信ができなくなることがありますが、これを修正しました。
- 4.70 VRRP において、バーチャル IP アドレスを実際に保有している場合（物理インターフェースの IP アドレスとバーチャル IP アドレスが一致している場合）、起動時に同 IP アドレスに対する ARP Request を送信しませんでした。これを修正しました。

- 4.71 VRRP 使用時、バーチャル MAC アドレス宛てのパケットを CPU で処理していましたが、これを修正しました。
- 4.72 VRRP の有効なインターフェースがダウンした状態で設定を保存すると、再起動後、該当インターフェースで VRRP が動作しなくなっていました、これを修正しました。
- 4.73 CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されていましたが、これを修正しました。
- 4.74 DHCP サーバ機能の使用中に DELETE IP INTERFACE コマンドを実行すると、同コマンドを実行したのとは別の VLAN において、DHCP クライアントが IP アドレスを取得できなくなる場合がありますが、これを修正しました。
- 4.75 DHCP サーバ機能の使用中に本製品のソフトウェアをバージョンアップすると、バージョンアップ前に IP アドレス等を割り当てたクライアントからのリース延長要求に正しく応答できない場合がありますが、これを修正しました。
- 4.76 DHCP サーバ機能の使用中に本製品を再起動すると、DHCP レンジ内の IP アドレスの状態が reclaim のままになってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.77 CREATE DHCP RANGE コマンドの IP パラメーターに不正な IP アドレスを割り当てたのち、DELETE DHCP RANGE コマンドで同アドレスを削除しようとする、リポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.78 DHCP サーバ機能で IP アドレスを静的に割り当てるよう設定していても、再起動すると動的にアドレスが割り当てられていましたが、これを修正しました。
- 4.79 DHCP サーバ機能使用時、リレーエージェント経由で受信したリース延長要求に対し、DHCPNAK メッセージを返送していましたが、これを修正しました。

また、以下の 4 項目は、ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl05** のリリースノートに制限事項として記載されていましたが、実際には **2.6.1 pl04** から **2.6.1 pl05** へのバージョンアップにおいて修正されていました。**2.6.1 pl05**、**2.6.1 pl12 (本バージョン)** のいずれにおいても、次に示す 4 つの制限事項は存在しません。

- 4.80 (8748SL のみ) PROTECTED オプション付きで作成した VLAN に IP アドレスを設定した場合、SHOW SWITCH FDB コマンドを実行すると、スイッチ自身の MAC アドレスを持つスタティックエントリが表示されますが、これは表示だけの問題で動作には影響しません。無視してください。
- 4.81 ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。

4.82 本製品と相手機器双方の Neighbour キャッシュが空の状態、相手機器から本製品に向けてデータ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリブートすることがあります。本製品に対して、データ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行しないでください。

4.83 DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。

また、以下の項目はソフトウェアバージョン 2.6.1 pl04、2.6.1 pl05 のリリースノートに制限事項として記載されていましたが、実際には 2.6.1 pl04、2.6.1 pl05、2.6.1 pl12 (本バージョン) のいずれにおいても、このような制限はありませんでした。

4.84 ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できません。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl12 には、以下の制限事項があります。

5.1 SHOW USER RSO コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「セキュリティ」](#)

SHOW USER RSO コマンドの「Failed logins」欄と「Last failed login」欄に値が表示されないことがあります。

5.2 SNMP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「SNMP」](#)

- MIB-II の ifInErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。
- dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。

5.3 NTP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「NTP」](#)

NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。

5.4 コンソールポート

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「非同期ポート」

電源をオンにしてから、時刻情報を設定しない状態で 24 時間経過すると、コンソールポートからのキー入力ができなくなります。電源をオンしてから 24 時間以内に時刻情報を設定するか、キー入力ができなくなった場合には、TELNET でログインして時刻情報を設定してください。

5.5 SET TTY コマンドの PAGE パラメーター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

5.6 TELNET ログイン時の注意

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

本製品に Telnet ログインしているときは、Ctrl-D を入力しないでください。入力すると、わずかずつですがメモリーリークが発生します。

5.7 フローコントロール

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分で「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

5.8 ポートトランキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- ポートトランキングと RIP を併用しているとき、トランクグループの所属する IP インターフェースがダウンすると、他の IP インターフェースから送信される RIP Response パケットの始点アドレスに、ダウンしたインターフェースのアドレスがセットされます。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行すると、ポートトランキングが動作しなくなります。設定可能なトランクグループは最大 6 個なので通常は問題ありませんが、最初に設定を作成するときなど、コマンドラインから CREATE SWITCH TRUNK コマンドと DESTROY SWITCH TRUNK コマンドを繰り返し実行するようなケースでは、CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行する可能性があります。

す。入力した設定内容は正しく保持されていますので、ポートランキングの設定変更後は、設定を保存し、システムを再起動することをおすすめします。

- (8724SL のみ) ポートランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMPSPNOOPING コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
 (「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します)
 (8748SL では、ポートランキングと IGMP Snooping は併用できません)
- (8724SL のみ) ポートランキングと DVMRP の併用時、マルチキャストデータの転送ができなくなることがあります。
 (8748SL では、ポートランキングと DVMRP は併用できません)

5.9 スパニングツリープロトコル

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。
- STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されます。STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てるときは、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしたポートがないかどうかを確認してください。
- スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されます。
- 「ADD VLAN=xx PORT=x FRAME=TAGGED」で VLAN に追加したタグ付きポートにおいて、スパニングツリープロトコル (Rapid モード) が正しく動作しないことがまれにあります。このようなときは、いったん DISABLE STP=xxx PORT=x を実行し、その後 ENABLE STP=xxx PORT=x を実行してください。
- スパニングツリープロトコルを使用しているとき、高負荷通信時に MAC アドレスが FDB に登録されないことがあります。ただし、内部テーブルには登録されているため、運用上は問題ありません。
- STP ドメイン「Default」が有効になっている環境において、複数の STP ドメインに所属しているポートに対して DISABLE STP PORT コマンドを実行しても、ポート無効の設定がすべての STP ドメインに反映されないことがあります。

5.10 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- 8748SL では、ポート 25 ~ 48 とポート 49 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT、SENDEPORT アクションが機能しません。
- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。
- ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで IMPORT=False、または EMPORT=False を指定すると、IMPORT=True、EMPORT=True の設定で動作します。False で動作させたい場合は、IMPORT、EMPORT パラメーターを指定しないでください（デフォルトで False の設定になります）。

5.11 802.1X 認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

- Authenticator ポートの Port Status が authorised であるにもかかわらず、Supplicant が通信できなくなることがあります。このようなときは、ACTIVATE PORTAUTH PORT REAUTHENTICATE コマンドで Supplicant を再認証してください。
- システム起動直後、ケーブルを接続していない Authenticator ポートに対して SHOW PORTAUTH PORT コマンドを実行すると、Authenticator PAE Status が INITIALISE であるにもかかわらず、Port Status が authorised と表示されます。
- Windows 2000 Server (IAS) を RADIUS サーバーとして使用している場合、本製品の Supplicant ポートは認証されません。

5.12 ICMP メッセージ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

5.13 TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドで値を設定し、SHOW TRACE コマンドで表示すると、設定した値が正しく表示されない場合があります。

5.14 IP 統計情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- ファイアウォール有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts, ifInBcastPkts, ifInUcastPkts, ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

5.15 ディレクティッドブロードキャストアドレス宛のパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

異なるネットワークからディレクティッドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース (パケットを実際に送り出すインターフェース) の IP アドレスがセットされます。

5.16 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- 仮想リンクが確立している状態で OSPF エリアの設定を変更すると、レポートすることがあります。仮想リンク確立後に OSPF エリアの設定を変更するときは、EDIT コマンドを用いて設定ファイルを直接編集し、再起動してください。
- SET OSPF INTERFACE コマンドの PRIORITY パラメーターで OSPF インターフェースのルーター優先度を変更すると、該当 OSPF インターフェースの状態が初期化され、LSDB の交換が開始されます。

5.17 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

- 特定アドレス宛での経路として、ルートマップの設定されている経路と、Withdrawn 状態の経路の 2 つが BGP-4 の経路表に登録されている場合、同じアドレス宛での経路情報を受信するとレポートします。
- ADD IP ASPATHLIST コマンドで不正な AS パターンを指定するとレポートすることがあります。不正な AS パターンを指定しないよう注意してください。

5.18 DNS サーバアドレスの動的取得

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバアドレスが動的に取得されます。

5.19 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

- DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。
- DNS キャッシュ機能使用時、キャッシュエントリーがタイムアウトで削除されても、メモリーが解放されないことがあります。

5.20 スタティック ARP エントリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリポートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

5.21 ソフトウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」

- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。
- ソフトウェア IP フィルターのエントリー番号に欠番がある場合（例：エントリー 1、3 があって 2 がない状態）、SET IP FILTER コマンドの ENTRY パラメーターが正しく機能しません（この例では、ENTRY=3 を指定するとエラーになります。この場合、ENTRY=2 を指定すると正しく動作します）。ソフトウェア IP フィルターの設定を変更するときは、EDIT コマンドなどを利用して設定ファイルを直接編集し、システムを再起動してください。

5.22 DHCP リレー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされません。

5.23 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースのネットマスクがクラス標準マスクでないと、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

5.24 Neighbour キャッシュ

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。
- RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行すると、スタティック登録した Neighbour キャッシュエントリも削除されます。

5.25 DVMRP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

- VLAN が 1 つしか存在しない状態で DVMRP を有効にすると、不正なパケットを送信することがあります。またこのとき、CPU の負荷が高くなる場合があります。VLAN が 1 つしか設定されていない状態で DVMRP を有効にしないでください。
- DVMRP とタグ VLAN の併用時、マルチキャストデータが正常にルーティングされないことがあります。
- DVMRP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラッディングされません。

5.26 PIM

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- (PIM-DM/PIM-SM) マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを選けるには、次のようなハードウェア IP フィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
ADD SWITCH L3FILTER MATCH=DIP DCLASS=HOST
ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY DIP=224.0.0.13 PRIO=5 AC=SEND
```

- (PIM-DM) Prune Limit Timer 満了後にマルチキャストデータを受信しても、Prune メッセージを送り出しません。この場合、1 分後に Prune メッセージが送出されるまで、マルチキャストデータのフラッディングが続きます。

- (PIM-DM) SHOW PIM ROUTE で表示される Keep Alive time が正しくカウントダウンされないことがあります。

5.27 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新します。

5.28 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

- SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。
- IGMP Snooping 機能において、メンバーの存在しないグループ宛てのパケットが転送されることがあります。
- IGMP Snooping 使用時、複数のメンバーが存在するマルチキャストグループから 1 つのメンバーが脱退すると、SHOW IGMP Snooping コマンドで表示される Entry timeout が更新されます。

5.29 MLD Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

IGMP Query、RIP などの IPv4 のルーターパケットを受信した際に、内部テーブルの All Group エントリーにその受信ポートを追加します。

5.30 IPX

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPX」 / 「IPX インターフェース」

IPX インターフェースの構成ポートがすべてリンクダウンしても、SHOW IPX CIRCUIT コマンドの表示項目 Link State に反映されません（表示上は「up」のまま）。このようなときは、いったんケーブルを抜き差しすると正しく表示されるようになります。

5.31 ファイアウォール

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

- ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。
- ADD FIREWALL POLICY コマンドでダイナミック ENAT の PUBLIC インターフェースに IP と LIST を指定したルールを設定した場合、エラーメッセージが表示されます。その場合は、ADD FIREWALL POLICY コマンドで MAC アドレスリストを追加し、SET FIREWALL POLICY コマンドで IP アドレスを設定してください。
- FTP サーバーの制御用コネクションポートが 21 以外のとき、FTP データの通信に対して NAT が機能しません。
- PUBLIC 側から PRIVATE 側に対して FTP 通信を行った場合、SHOW FIREWALL SESSION コマンドで不要なセッションが表示されることがあります。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
- PUBLIC 側インターフェースにルール NAT（エンハンスト、リバース、ダブルのいずれか）を設定した場合、PUBLIC 側から PRIVATE 側への FTP 通信が正常に行えないことがあります。
- ファイアウォールを無効にしても、SHOW FIREWALL POLICY COUNTER コマンドで表示される「Number of active session」の値がクリアされません。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。

5.32 VRRP

 **「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」**

- VRRP が無効状態のときに VRRP インターフェースがリンクアップすると、その後 VRRP を有効化しても該当インターフェースでは VRRP が動作しません。
- CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定し、なおかつ、STEPVALUE パラメーターに具体的な数値を指定した場合、その後 PORTMONITORING を OFF に変更して設定を保存すると再起動時にエラーが発生します。これを避けるには、STEPVALUE パラメーターにキーワード PROPORTIONAL を指定してください。

5.33 DHCP サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」**

- MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。このようなときは、リースされている IP アドレスを一度解放し、再度取得させるようにしてください。
- DHCPNAK メッセージを送信しません。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.C)」の補足事項です。

6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

6.3 スイッチポートの統計カウンター（8748SL のみ）

8748SL では、ポートグループ「1～24、50」と「25～48、49」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。

6.4 1000Mbps ポートのフラディングレート

リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

6.5 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

6.6 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.7 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、EtherType = 0x86DD (IPv6) の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーがマッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない (スイッチングされる) IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。
- IPX ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPX パケットに対しては、SENDMIRROR 以外のアクションが機能しません。また、SENDMIRROR アクションと EPORT パラメーターは併用できません。ルーティング対象の IPX パケットをフィルタリングするには、IPX トラフィックフィルターを使用してください。なお、ルーティング対象でない (スイッチングされる) IPX パケットには、すべてのアクションが機能します (ただし、IP パケットを前提としている MOVETOSTOPRIO、SETTOS、MOVEPRIOTOTOS、SETIPDSCP アクションは使用不可)。
- フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチします。

6.8 802.1X 認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

802.1X 認証を有効にしたポート (Authenticator、Supplicant とともに) では、ポートランキング、スパンニングツリープロトコル、ダイナミックポートセキュリティを使用できません。また、Authenticator ポートをタグ付きに設定することはできません。

6.9 IP マルチキャストのハードウェア処理

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「概要」

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最初に ADD IP INTERFACE コマンドを実行した VLAN の VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLTALK, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIMG, IPSEC, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

COPY

DUMP

START PKT

STOP PKT

SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]

SET PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK

SHOW SWITCH MEMORY

SHOW SWITCH SWTABLE

SET SWITCH SOCK

SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF}]

CREATE/DESTROY IP POOL

SHOW IP POOL

ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ; INTERFACE}]

ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY

ADD/DELETE IP EGP

ENABLE/DISABLE IP EGP

SHOW IP EGP

ADD/SET IP RIP [NEXTHOP]

ADD/DELETE IP SA

SHOW IP SA

SET IP ARP [DLCI] [CIRCUIT]

SET IP RIP NEWIPADDRESS

SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW
ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCE
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT] [FRAGOVER-
HEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER] [NUMBER] [TYPE]

ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE]
[TYPE]

ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRRESH]

SET BOOTP MAXHOPS

ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (J613-M0019-01 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パートナンバー「J613-M0019-01 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

